

C F T ニュース & 息抜き (3月)

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2025年3月の気になる問合せ

(1) ドリップバッグコーヒーであるが、賞味期限及び生豆生産国が異なる5袋を包装した外箱への記載はどうなるか。

⇒ 賞味期限は一番短いものを外箱に記載してください。
生豆生産国名はそれぞれ記載をお願いします。

(2) 街のイベントで4軒の喫茶店がそれぞれドリップバッグコーヒーを委託製造し、この4種類のドリップバッグコーヒーを包装して販売する考えである。コーヒー豆の生産地や賞味期限が異なるものの包装となる。

この場合、

- ① 4種類のコーヒーを包装した容器にはそれぞれの一括表示が必要か、
 - ② 賞味期限は最も短いドリップバッグコーヒーの賞味期限でよいか、
 - ③ 街の商工振興会（任意団体）を販売者として表示してよいか、
 - ④ 8ポイントで表示しなければいけないか、
- 以上教えて欲しい。

⇒ ①について

包装された4種類のドリップバッグコーヒーの一括表示が見えないのであれば、それぞれの一括表示は必要である。

②について

賞味期限は最も短いドリップバッグコーヒーの賞味期限を外装に表示できればよい。

③について

街の商工振興会がイベント期間のみの販売ということで販売者と位置付けることは問題がある。そもそも食品表示責任者は誰にする考えか。ドリップバッグコーヒーを受託製造した者は衛生面の責任を負うと考えられ、商工振興会（任意団体）が問題発生時どの製品がどこで製造されたか対応できるのであれば販売者も可能であるが、そうでなければ避けるのがベターと考える。

④について

表示可能面積がおおむね 150 センチ平方メートル以下であれば 5.5 ポイント以上の活字とすることができるが、それ以上であれば 8 ポイント以上の活字とすべきである。

以上であるが、十分注意し販売されることをお勧めする。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

コーヒーの国際価格は依然として高値で推移している。コーヒー輸入消費国の消費はこの高値の影響から逃れられないようである。コーヒー需要は堅調にみえたが、ここに来て高値が消費者を追い払っているように感じる。

国際コーヒー機関（ICO）の統計では、年間1人当たりコーヒー消費量はコロナ禍の2021年と2022年のマイナスを除けば、2018年の4.40 kgから2023年に4.59 kgへ増加している。ICO統計に寄れば最も消費量の多い国はルクセンブルグ、次いでフィンランドで2023年はそれぞれ22.5 kg、9.6 kgとなっている。ルクセンブルグは消費税率が低いため周辺国からの買出しが名目上の消費増となっているとみている。この意味ではフィンランドの消費量にはロシアへ流れている分が計上されていたのではないかと思える。同国の消費量は2018年から2020年まで12 kg以上、2021年、2022年と10 kg台で、2023年は9.6 kgに落ちている。この現象はロシアのウクライナ侵略に対するEU諸国のロシア制裁の影響とみてよいだろう。CFT子の経験では10年ほど前のサンクトペテルブルクの高級食品スーパーのコーヒー製品はほぼ全てドイツ製であった。コーヒーが隣国のフィンランドからロシアへ向かっていたのはごく普通であろう。オランダ、ドイツ、ベルギーなどは散歩中に国境を超えても判らないことがある。なお、サンクトペテルブルクやモスクワの五つ星ホテルのコーヒーはいずれもヴェトナム産コーヒー豆であった。

米国の年間1人当たりコーヒー消費は、2018年の4.9 kgから2019年に5.0

kgへ増えたものの、これをピークに2023年に4.2kgへ落ち込んでいるが、これは異常なインフレによるコーヒー販売価格やサービス料の上昇に伴うマイナス作用だとみている。国家公務員に聞いたところでは、2023年頃ワシントンへ出張すると大赤字になるため職場で出張拒否者が出て困るとのことであった。ランチをMドナルドで摂っても4千円程度かかり、異常なインフレだと嘆いていたが、コーヒー消費にも影響したのだろう。

この期間の日本の消費量は2018年3.7kg、2020年～2022年3.4kg、2023年3.2kgと減少傾向にある。コロナの影響やコーヒーの国際価格上昇の影響とみられる。

先月発表された財務省の2025年1月の通関統計では、コーヒー生豆の輸入CIF価格は、ベトナムがキロ当たり822円（前年同月393円）、ブラジルが同784円（同513円）、エチオピア同801円（同690円）、全体では同854円（同509円）で前年同月の68%UPとなっている。CIF価格であるから港湾荷役料、運送料、選別費用などを考慮すると、とんでもない値段になるのであろう。会員各社は大変なことと思う。某N紙はアラビカ種コーヒーを高級コーヒーとしているが、ベトナム産ロブスタの輸入価格がエチオピア産を上回って推移しており、単純に高級という文字を用いるのはいかがかと思う。

コーヒー輸出国の消費量は概して増加傾向にある。ブラジルの年間1人当たり消費量は2017年の6.35kgから2022年に6.38kgへ増え、世界第2位のコーヒー生産国ベトナムは同期間に2.15kgから2.41kgへ増加している。

コーヒー生産国の多くが人口増や所得増などからコーヒー消費量は増えておかしくない。といって、コーヒー生産国は熱帯雨林の保護のため簡単に栽培地拡大に取り組めないという事情があるが、彼らにとっては先進国の身勝手な要求で、コーヒー生産国の職のない人たちは森林を拓いて生きるしかない、という事情がある。コーヒー生産地が劇的に増えることなく供給が拡大しなければ、現在のニューヨークのコーヒー相場は、price rationing作用により収まるしかないのかもしれない。

今朝、2月の通関統計が届いたが、1月の状況と殆ど変わっていない。

（2025年4月1日記）